

先端医療センター病院の中央市民病院への統合

このたび、神戸市は、先端医療センター病院（病床 60 床）を、神戸市立医療センター中央市民病院（病床 708 床）に統合する方針を決定し、両病院を運営する（公財）先端医療振興財団および（地独）神戸市民病院機構において、統合に向けた検討を開始しました。

1. 統合の背景

- ・先端医療センター病院は、標準的な医療では対応困難な疾病を克服するため、再生医学、映像医学、臨床研究（治験）などの分野で画期的な治療法の開発や高度で先進的な医療を市民に提供するなど、神戸医療産業都市の発展に大きく寄与してきた。
- ・一方、国においては、医療法に基づく臨床研究中核病院（※）が新たに創設されるなど、より高度な臨床研究については、安全性やガバナンス体制等が確保された大規模な総合病院中心で進めていく方向性が示されている。
- ・また、先端医療センター病院は、高度かつ専門的な医療を提供するなど公的な役割を担っているにも関わらず、市立病院ではないため、国の財政措置がない。

（※）医療法に基づく臨床研究中核病院

日本発の革新的医薬品・医療機器の開発などに必要となる質の高い臨床研究を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として新たに創設。

診療科 10 以上、病床数 400 床以上、臨床研究支援・管理部門に所属する人員数などが要件。

2. 統合の効果

(1) 神戸医療産業都市における臨床研究実施体制の拡充

先端医療センター病院の臨床研究・治験部門を中央市民病院に統合することで、これまで以上に安全で安定的な臨床研究・治験実施体制を確立し、市民に最先端の研究開発の成果を提供

※先端医療センター病院で実施中の臨床研究・治験は、原則として中央市民病院において継続実施

(2) 中央市民病院の機能強化

隣接する先端医療センター病院の医療機能等を中央市民病院に集約することによって、一元化や効率化を図り、中央市民病院の機能を強化

(3) 市の財政負担の軽減

市立病院となることで、医療機器更新等にかかる国の財政措置を市として受けることができるようになるなど、市の財政負担が軽減

3. その他

- ・（仮称）神戸アイセンター病院については、先端医療振興財団を運営主体として開設にむけた準備を進めてきたが、運営主体を神戸市民病院機構に変更する方向で検討を開始した。
- ・病院統合後の先端医療振興財団については、神戸医療産業都市の中核機関として、クラスター全体の総合調整および研究開発機能を強化する方向で発展的に改組する。

(参考) 病院概要

名称	先端医療センター病院	(仮称) 神戸アイセンター病院
開設者	公益財団法人先端医療振興財団	公益財団法人先端医療振興財団
診療科目	内科・呼吸器内科・血液内科・循環器内科・腫瘍内科・小児科・脳神経外科・眼科・整形外科・歯科 口腔外科・放射線診断科・放射線治療科・糖尿病内科・外科・耳鼻咽喉科・麻酔科	眼科
病床数	60 床	30 床
面積等	敷地面積：11,150 m ² 延床面積：22,393 m ²	敷地面積：2,000 m ² 延床面積：4,268 m ² (病院部分)